

DMG森精機株式会社

2024年度上半期(1-6月) 決算説明資料

2024年7月31日

1.2024年度上半期(1-6月)決算概要

2.事業環境

3.グローバル・マーケティング

4. MX (マシニング・トランスフォーメーション)の進展

5. ESG/CSRの取組み

2024年度 上半期 (1-6月)決算ハイライト

DMG MORI

- ✓ 連結受注額：1-6月 (上半期) 2,667億円、前年同期比 3%減。
4-6月 (第2四半期) 1,299億円、前年同期比 1%減。5月以降、月次受注は前年同月比でプラス基調
- ✓ 年度受注計画 5,300億円に増額修正 (従来計画5,200億円)
- ✓ 補修部品・サービス受注額：1-6月 626億円、前年同期比12%増。連結受注に占める構成比23% (前年度：22%)
- ✓ 受注平均単価、73.4百万円/ 446千EUR (2023年度 61.9百万円/ 407千EUR)。工程集約機 + 自動化推進
- ✓ 2024年6月末機械受注残 2,730億円 (2023年12月末：2,470億円)。下半期の機械売上をほぼ確保
- ✓ 営業増益：1-6月 (上半期) 232億円 前年同期比 3%増
(営業利益率：第1四半期 8.1% → 第2四半期 9.5%)
- ✓ 6月末株主資本比率39.5%へ改善 (2023年12月末：35.0%)。4月にCB転換完了

2024年度 上半期 (1-6月)決算概要

DMG MORI

(億円)	2022年 1-6月	2023年 1-6月	2024年 1-6月	増減 (%)
連結受注	2,993	2,758	2,667	-3.3%
連結受注残	2,440	2,820	2,730	
売上収益	2,182	2,495	2,637	+5.7%
営業利益	177	226	232	+2.8%
営業利益率	8.1%	9.0%	8.8%	
継続事業からの当期利益	113	149	144	-3.7%
ロシア製造会社 連結除外損失（一過性）		-0	-151 *	
当期利益（親会社所有者帰属）	113	149	-9	
償却費(リース含む)	116	124	152	
設備投資額	191	191	152	
USD/JPY	122.9	134.9	152.3	
EUR/JPY	134.3	145.8	164.6	

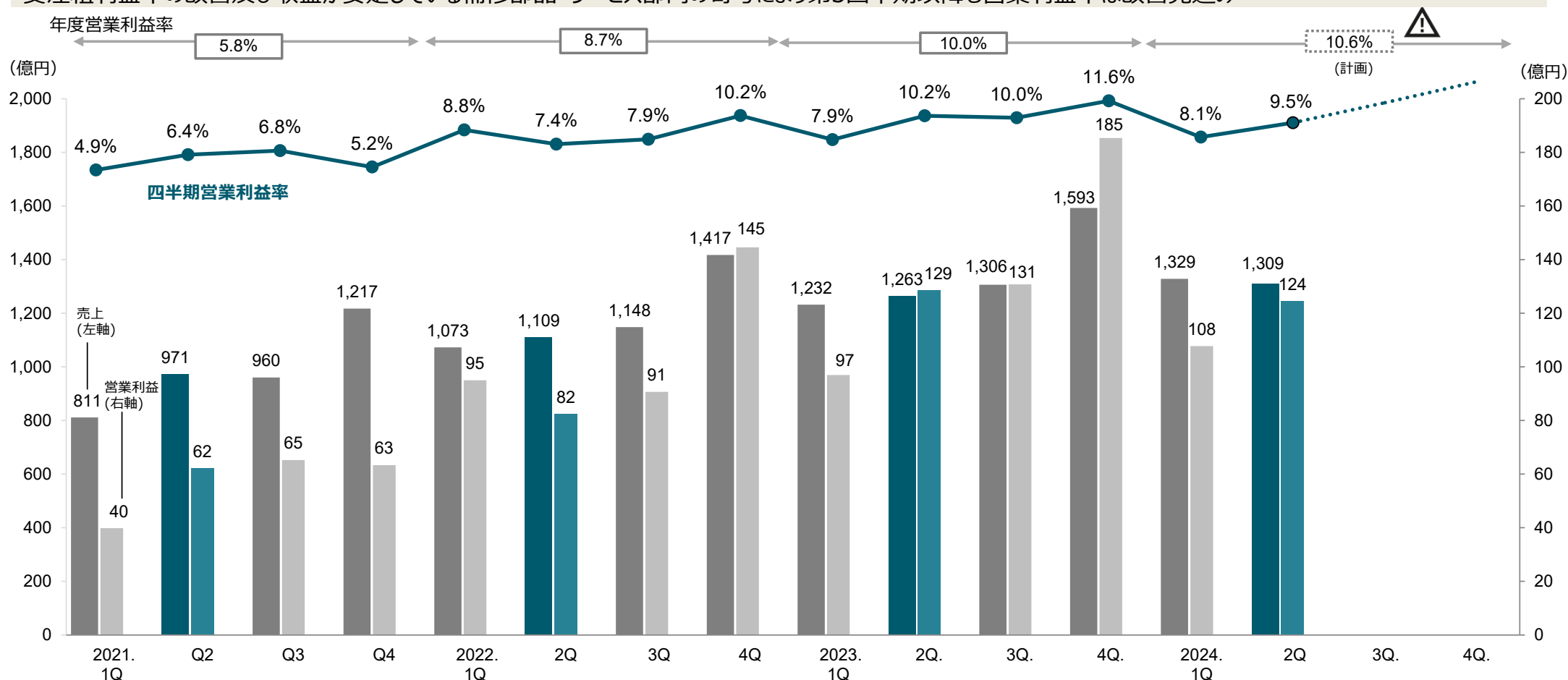
*第1四半期（1-3月）に、ロシア製造子会社Ulyanovsk Machine Tools ooo（UMT）の連結除外損失91.8百万EURを計上

※下半期社内計画レート：USD/JPY=150
EUR/JPY=160

四半期業績推移

DMG MORI

- ・第2四半期営業利益率 9.5%へ改善。MX推進による値引率の低減が継続
- ・受注粗利益率の改善及び収益が安定している補修部品・サービス部門の寄与により第3四半期以降も営業利益率は改善見込み



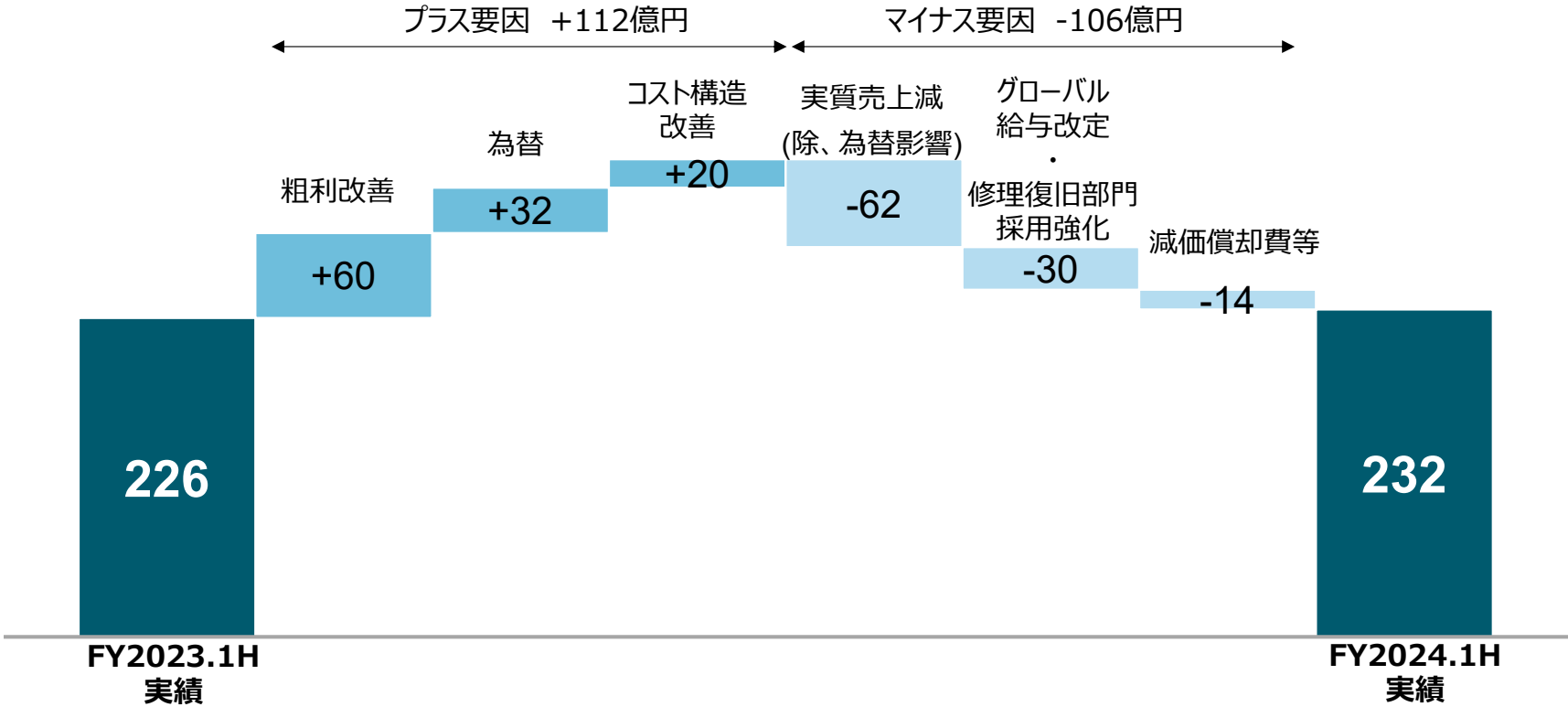
*2023年以前の数値にはUMTの連結除外にかかる影響を考慮していません。

営業利益増減分析
2023年度上半期 vs. 2024年度上半期

- お客様への価値提案による値引率低減＝粗利改善で、実質売上減の影響を相殺
- 修理復旧部門の採用強化でお客様満足度を高め、将来の持続的成長を確保

(億円)	FY2023.1H	FY2024.1H	増減
売上収益	2,495	2,637	+142

為替レート：	USD/円	FY2023.1H	FY2024.1H
	EUR/円	134.9	152.3
		145.8	164.6

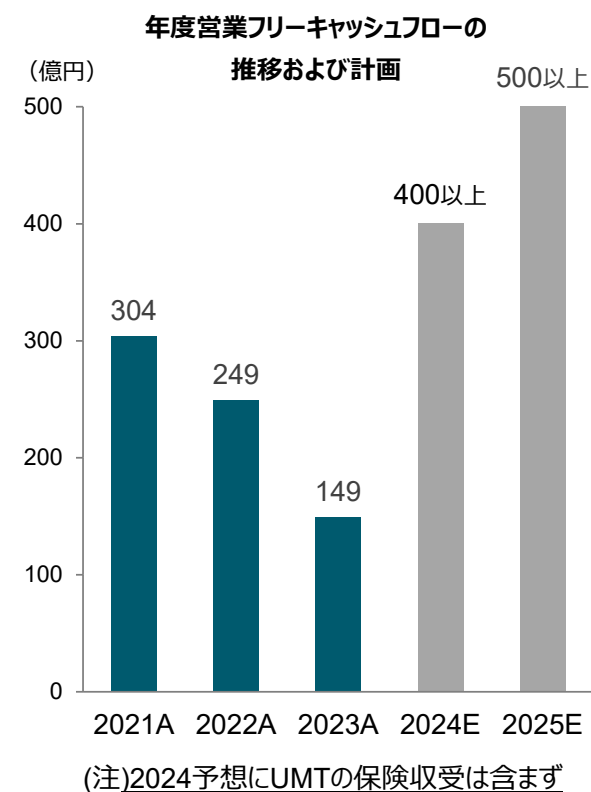


キャッシュ・フロー

DMG MORI

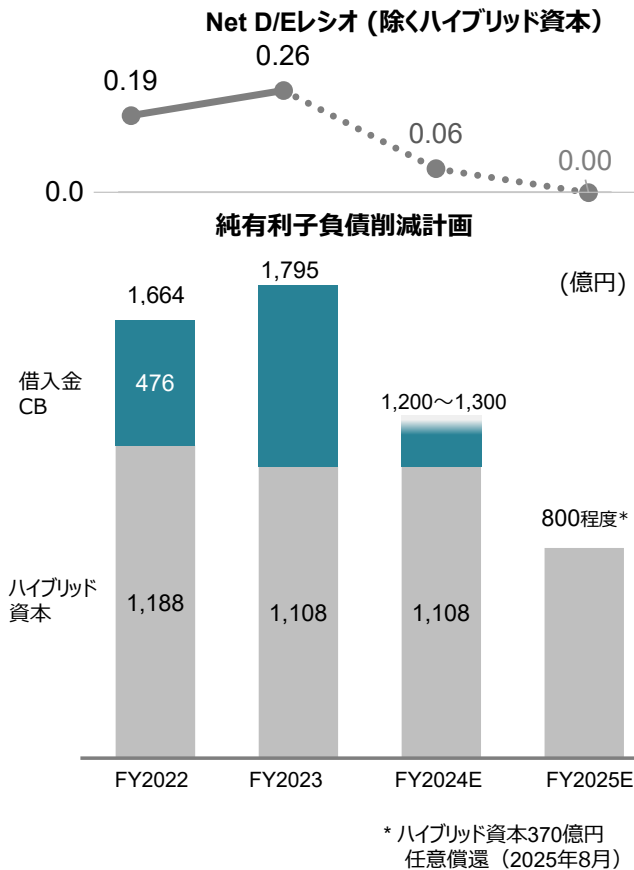
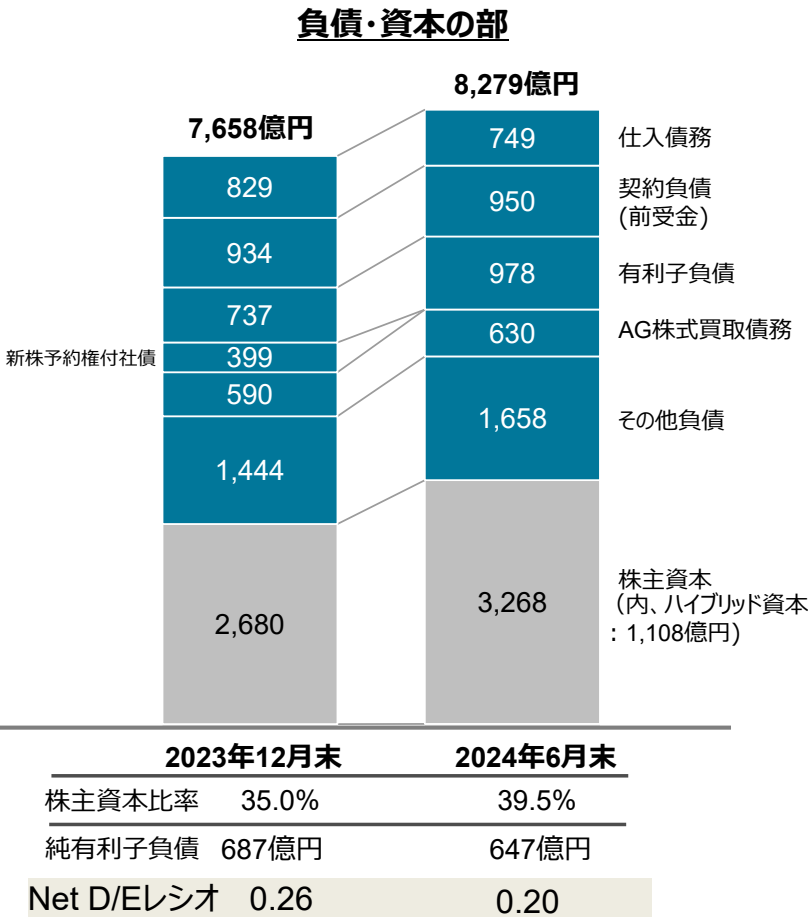
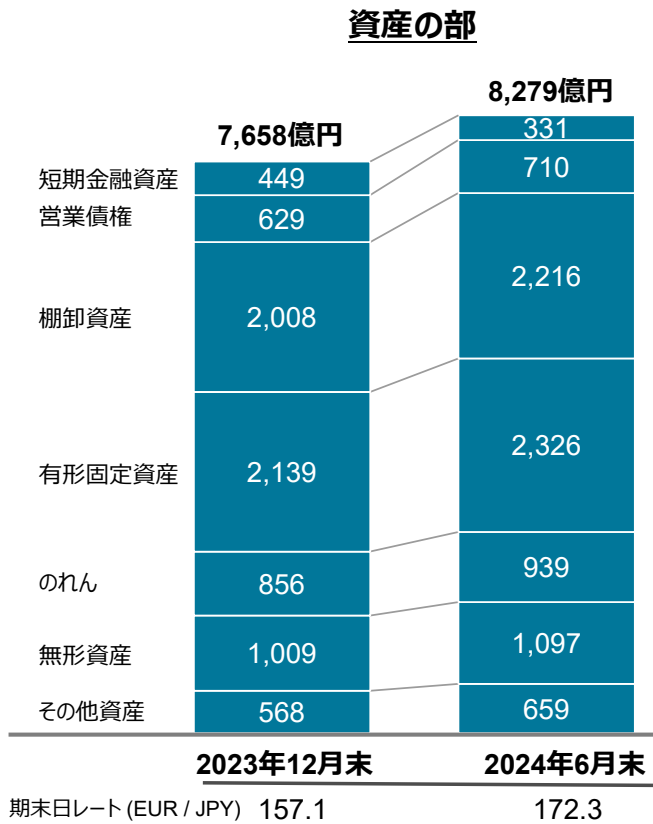
- ・ 調達を適正化する一方、ドイツ輸出許可長期化による完成機の出荷遅れ/棚卸資産の圧縮の遅れから、第2四半期の営業フリーキャッシュフローは赤字
- ・ 第3四半期以降、売上債権・棚卸資産の圧縮を進め、営業フリーキャッシュフローは黒字化。年度の営業フリーキャッシュフロー400億円見込み

(億円)	2022					2023					2024			
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	2H (計画)	FY (計画)
営業キャッシュフロー	125	236	101	235	697	93	51	58	315	516	95	-94	699	700
税引前四半期利益	89	74	80	122	365	85	112	117	165	479	93	113	319	525
償却費	56	60	58	66	240	62	63	68	72	265	74	78	148	300
運転資本増減	-18	99	-9	51	123	-17	-102	-71	99	-91	1	-138	287	150
その他	-2	4	-29	-3	-31	-37	-23	-56	-21	-137	-73	-147	-55	-275
投資キャッシュフロー	-101	-115	-118	-115	-449	-111	-101	-96	-59	-367	-106	-64	-130	-300
営業フリーキャッシュフロー	24	121	-17	121	249	-18	-50	-39	256	149	-11	-158	569	400



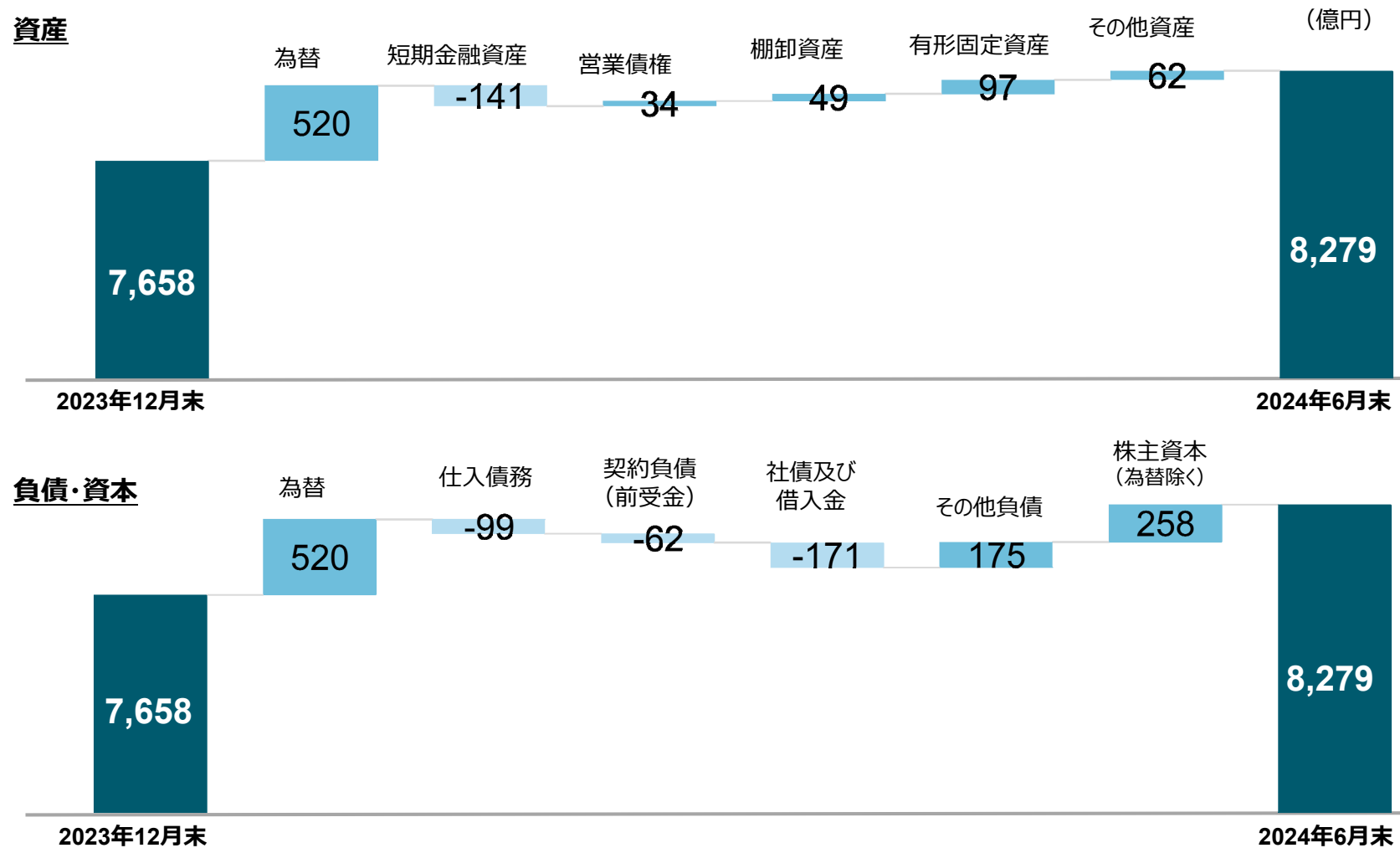
貸借対照表サマリー

- ・ 為替の影響額 約520億円
- ・ 6月末株主資本比率は39.5%へ改善。在庫削減により、12月末の株主資本比率目標45%程度



貸借対照表増減要因

DMG MORI



2024年度（1-12月） 通期業績見通し

DMG MORI

- ・ 年度連結受注計画を5,300億円に増額（従来計画5,200億円）2024年度売上収益は、機械受注残高及び好調な補修部品・サービス売上で確保。
- ・ 受注は回復基調。中期経営計画最終2025年度の目標達成へ

(億円)	2022年 (実績)	2023年 (実績)	2024年 通期計画 (4月26日公表)	増減 (%)	2025年 中計最終年度目標
連結受注	5,424	5,200	(従来計画) (新) 5,200 → 5,300	+1.9%	—
連結受注残	2,540	2,470	—		—
売上収益	4,748	5,395	5,500	+2.0%	6,000
営業利益	412	554**	585	+5.7%	720
営業利益率	8.7%	10.3%	10.6%		12.0%
当期利益（親会社所有者帰属）	254	339	360*	+6.1%	480
1株当たり当期利益（円）	188.62	256.66	242.61		326.16
償却費(リース含む)	240	265	300		—
設備投資額	411	425	300		3ヵ年累計1,000
USD/JPY	131.5	140.6	151 ※		140
EUR/JPY	138.1	152.0	162		150

* 2024年通期計画はUMTの保険収受を前提としています。

※第3四半期以降の為替前提：USD/JPY=150、EUR/JPY=160

**UMTの連結除外に伴い、2023年度を同一基準により修正した結果、営業利益は554億円(従来公表値:542億円)、営業利益率は10.3%(同:10.0%)となりました。

但し、当期利益への影響はありません。なお、2022年以前の数値にはUMTの連結除外にかかる影響を考慮していません。

1.2024年度上半期(1-6月)決算概要

2.事業環境

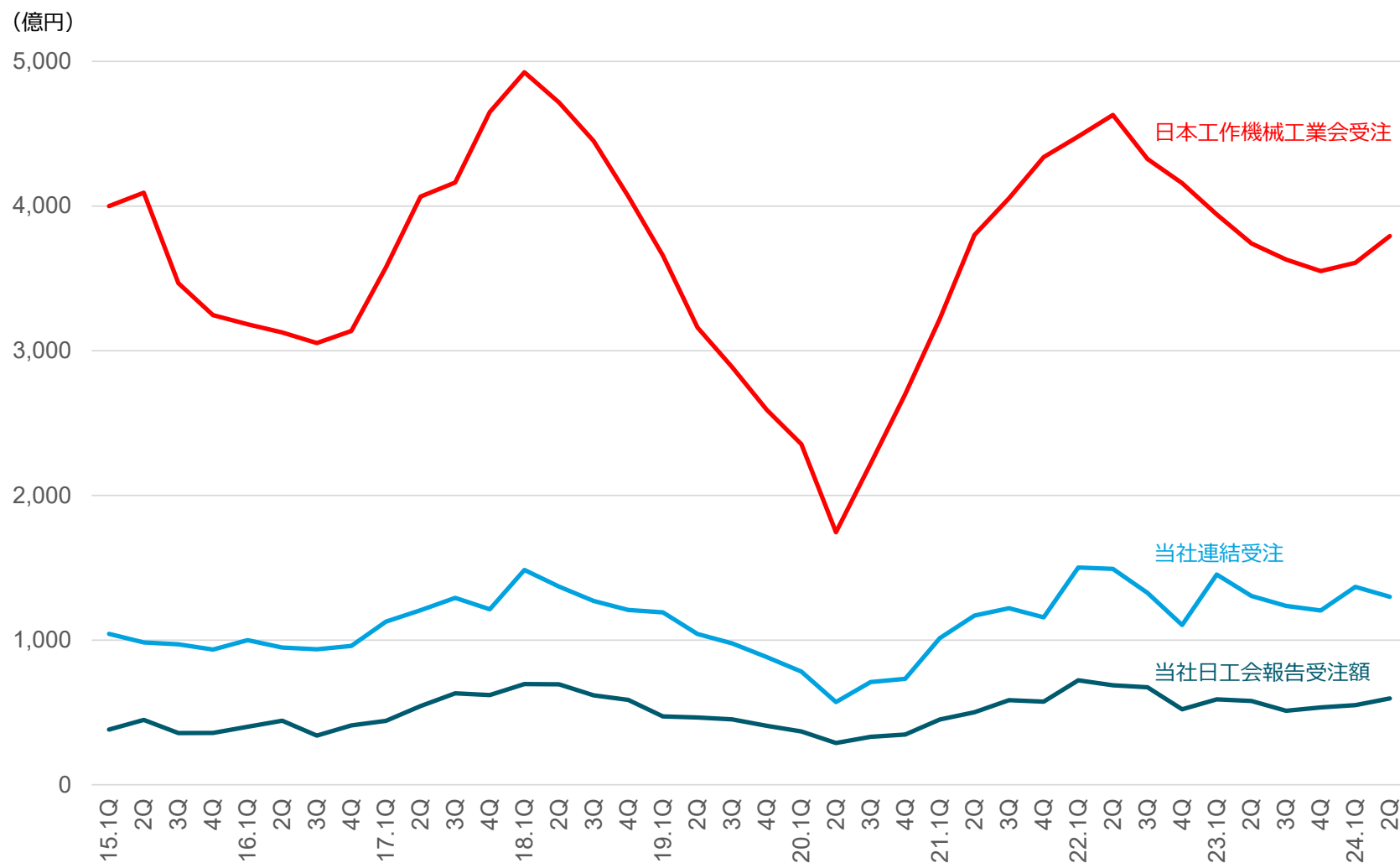
3.グローバル・マーケティング

4. MX (マシニング・トランスフォーメーション)の進展

5. ESG/CSRの取組み

日工会、当社連結受注、当社報告値 (四半期ベース)

DMG MORI



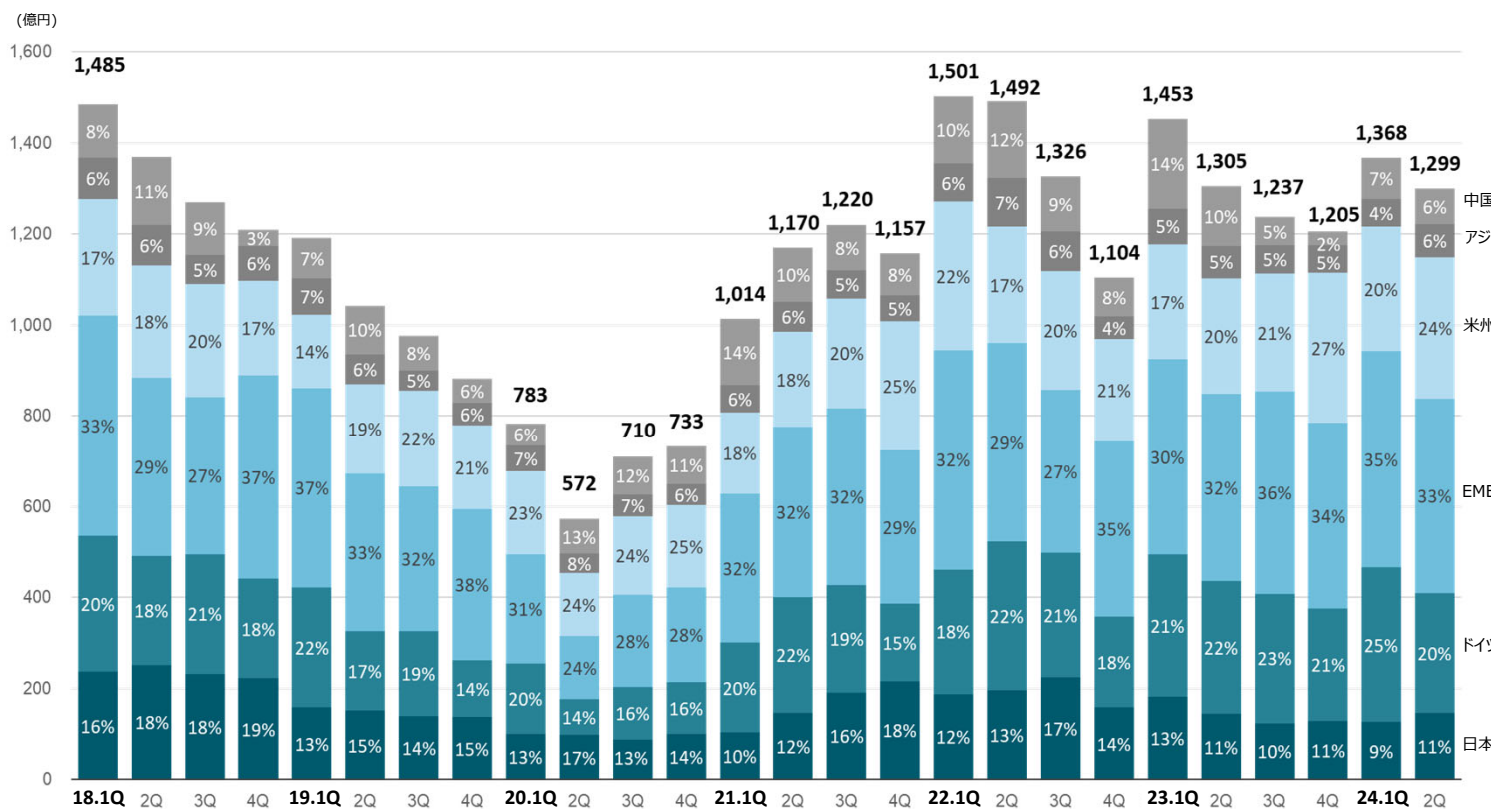
連結受注推移

DMG MORI

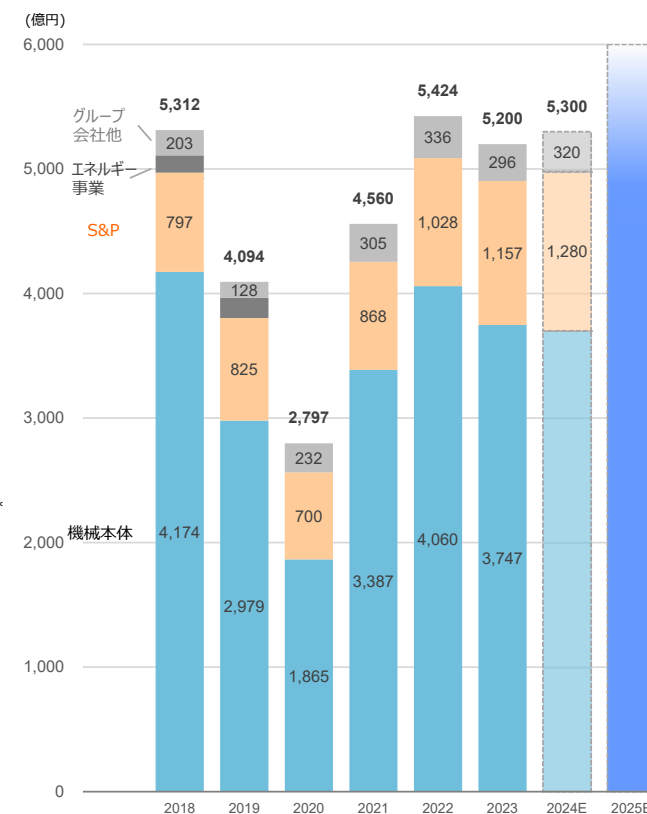
- 第2四半期連結受注は前年同期比ほぼ横ばい。5月以降、月次受注は前年同月比プラス転換
- 補修部品・サービス部門の受注は2桁成長継続。前年同期比、1-3月 +10%、4-6月 +12%。4-6月の連結受注構成比は24%

四半期

*Europe excl. Germany, the Middle East and Africa



年度

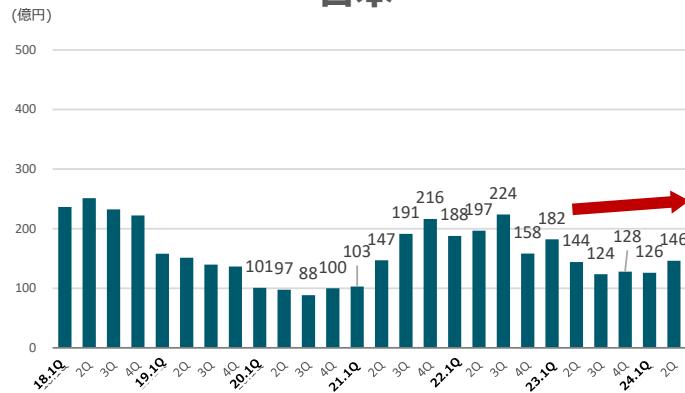


地域別受注推移

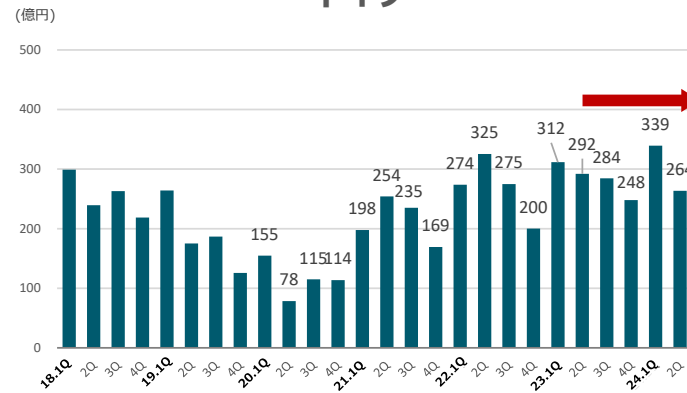
DMG MORI

- ・ 米州は好調持続。日本、アジアも増加へ転換
- ・ 欧州市場は、第1四半期のフロンテック展示会での受注増の反動はあるが、堅調維持

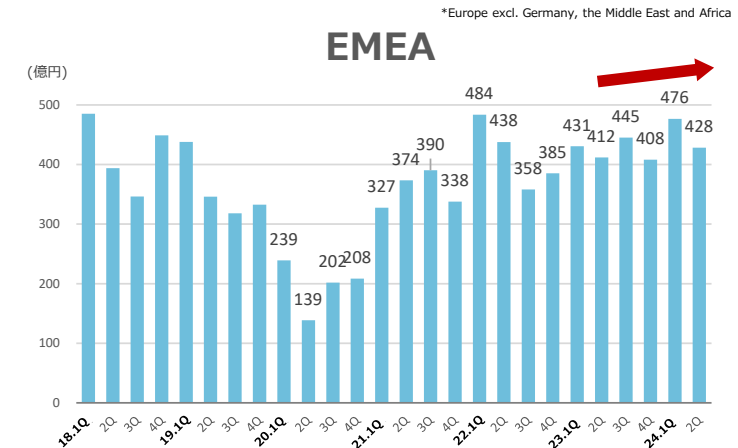
日本



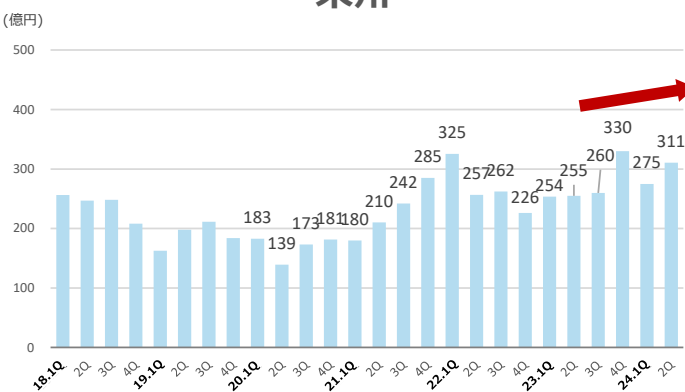
ドイツ



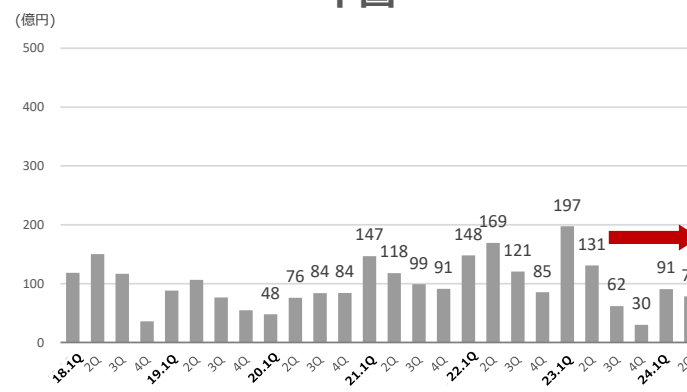
EMEA



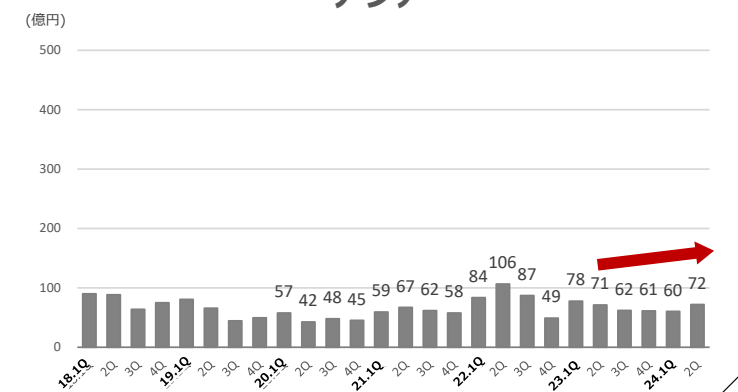
米州



中国



アジア



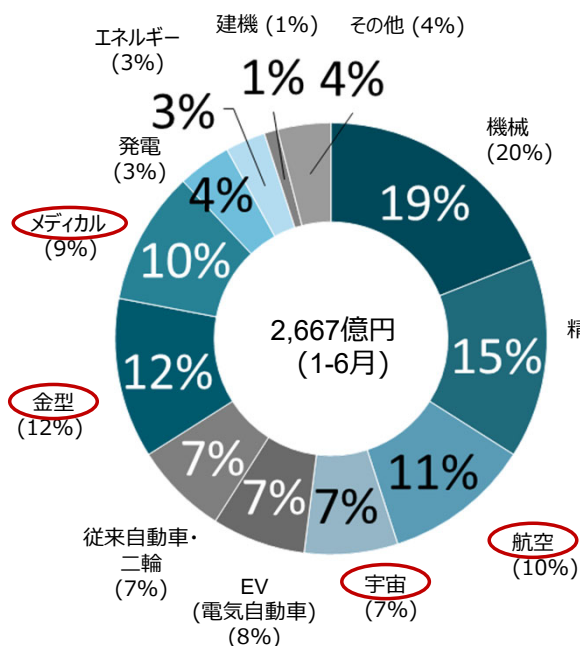
連結受注構成 (1-6月)

DMG MORI

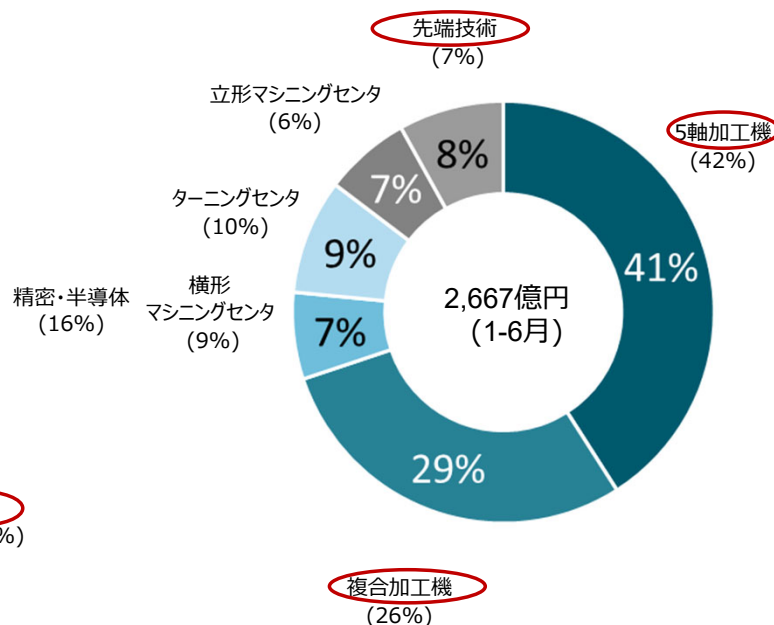
- ・ メディカル、航空、宇宙、金型が好調。半導体関連も第2四半期から再度回復基調
- ・ 工程集約・自動化対応機種が牽引。お客様の規模別の需要も大手中心から中堅、中小へも広がりつつある

※金額ベース
※カッコ内：2023年1-12月

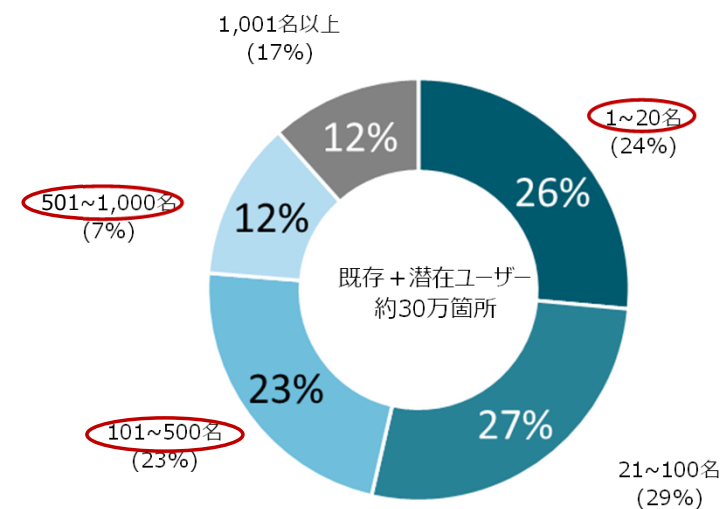
業種別



機種別

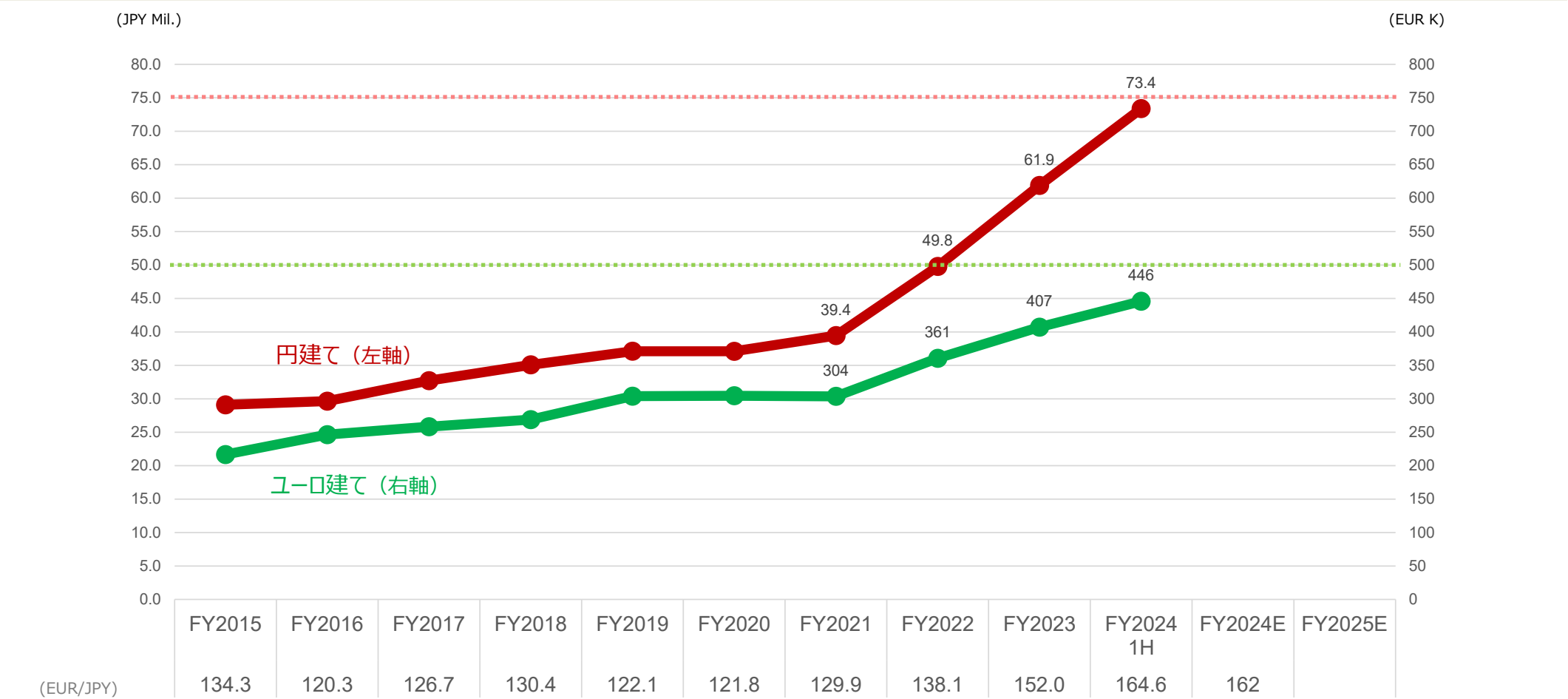


規模別



1台あたりの機械受注単価推移

- 機械受注単価は、工程集約機 + 自動化により上昇継続。
- 1-6月期ユーロベースの単価は前年度比9%増（円ベースの単価は19%増。円安の影響大）



1.2024年度上半期(1-6月)決算概要

2.事業環境

3.グローバル・マーケティング

4. MX (マシニング・トランスフォーメーション)の進展

5. ESG/CSRの取組み

CHICAGO TECHNOLOGY DAYS 2024 (9月8日-12日)

DMG MORI

MX – MACHINING TRANSFORMATION GENERAL EVENT FOCUS ALL WEEK



+ Keynote speeches from customers / industry experts

+ DMFS agenda points

DAY 1 –MX – MACHINING TRANSFORMATION



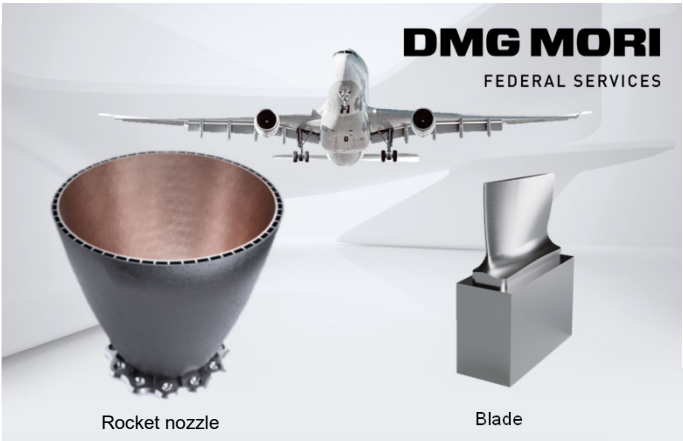
CELOS X

DX – DIGITAL TRANSFORMATION

DAY 2 –CELOS X & DX – DIGITAL TRANSFORMATION incl. TULIP



DAY 3 –AEROSPACE & SPACE EXCELLENCE



Rocket nozzle

Blade

DAY 4 –MEDICAL EXCELLENCE



Needle holder

Knee joint

Ocular fixture

DAY 5 –GEAR CUTTING



GEAR CUTTING & 5-AXIS

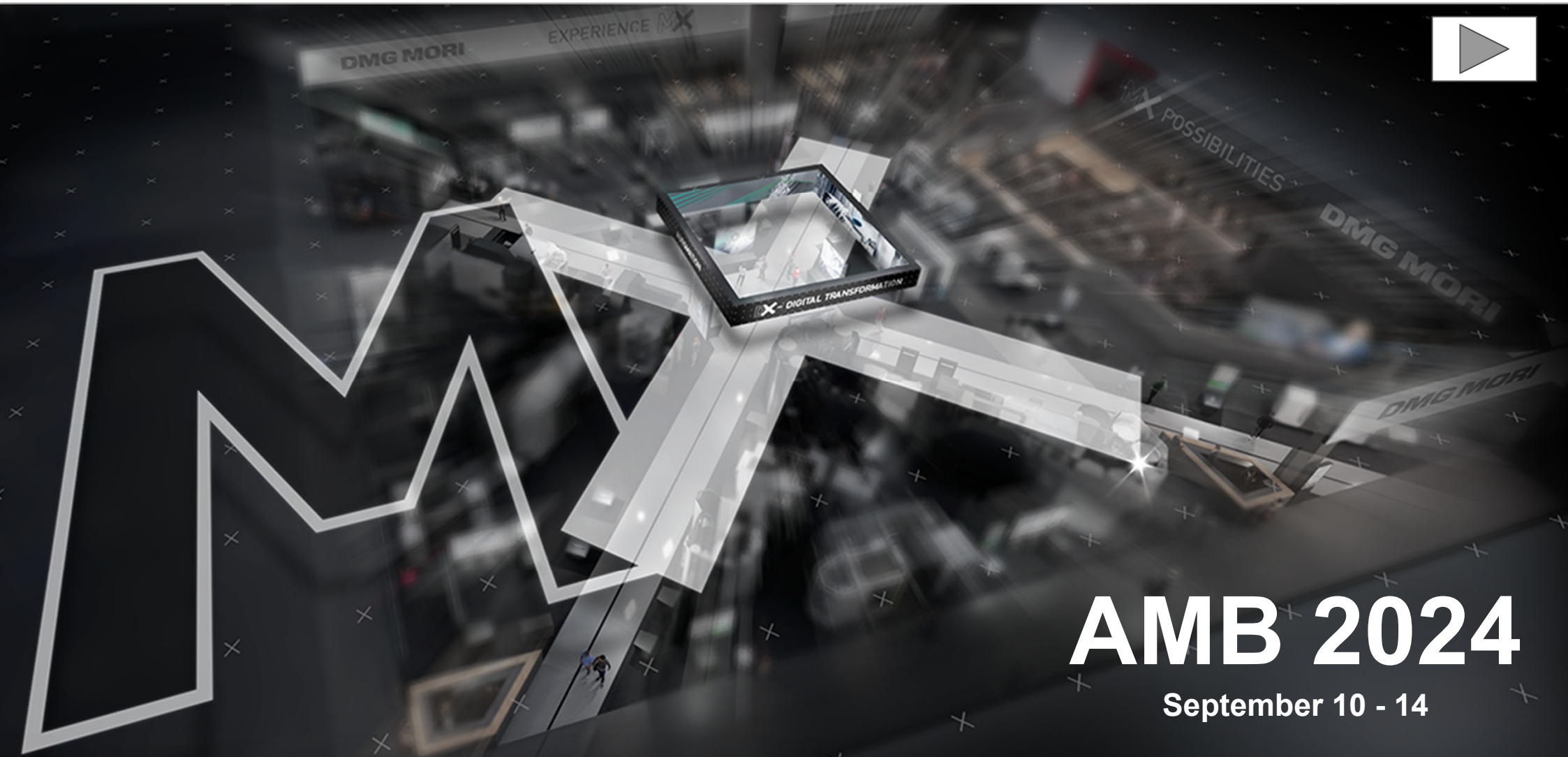
gearSKIVING

gearMILL

gearBROACHING

AMB 2024

DMG MORI



AMB 2024

September 10 - 14

DMG MORI ACADEMY 岡山開所

DMG MORI

- ・2023年4月浜松、5月金沢、9月仙台に続く4拠点目。2025年以降に九州を予定
- ・5軸加工機 DMU 75 monoBLOCK 2nd Generation
- ・複合加工機 NTX 1000 2nd Generation
- ・お客様のご要望に応じたスクールを提供



1.2024年度上半期(1-6月)決算概要

2.事業環境

3.グローバル・マーケティング

4.MX (マシニング・トランスフォーメーション)の進展

5. ESG/CSRの取組み

5軸加工機・ミルターン・複合加工機

2055年 **約 100 万台**



イノベーションのためには最新設備への入れ替えが不可欠



現在 **約 500 万台**



全世界の工作機械台数 (万台)

	現在	2035年	2045年	2055年
20年以上	150	200	150	30
10-20年	200	150	30	40
10年未満	150	30	40	30
累計台数	500	380	220	100

オペレーター数



エネルギー消費量



中間在庫・仕掛品



自動化ライン導入：お客様事例【株式会社 HME（エッチ・エム・イー）】

DMG MORI

✓ 半導体製造装置部品の切削工程を自動化

お客様名：株式会社HME（エッチ・エム・イー）
住所：三重県桑名市
代表取締役社長：服部一彌 様
社員数：175名（うち、正社員125人）



	既存設備の場合	NLX 2000 500 + 自動化システム導入
工作機械	32 台 (横形MC8台+ターニングセンタ24台)	15 台 (NLX 2000 3台+専用ローダ × 5 セット)
工程数	40 工程 (横形MC16工程+ターニングセンタ24工程)	15 工程 (NLX 1台で5工程 × 3 台)
オペレーター	17 人 (横形MC8台:3人+TC24台:10人+洗浄・バリ取り:4人)	1 人
生産能力	13,000個 / 月	

5軸・複合加工機とテクノロジーサイクルによるギヤ加工

DMG MORI

- ✓ 専用機や専用工具不要でギヤ加工ができるソフトウェアパッケージ
- ✓ 複雑なプログラミング作成の負担を削減

■ ギヤ加工を効率化するテクノロジーサイクルは、DMUシリーズ、NTXシリーズ、INHシリーズなどの5軸・複合加工機に搭載可能

ギヤスカイピング



DMG MORI gearMILL



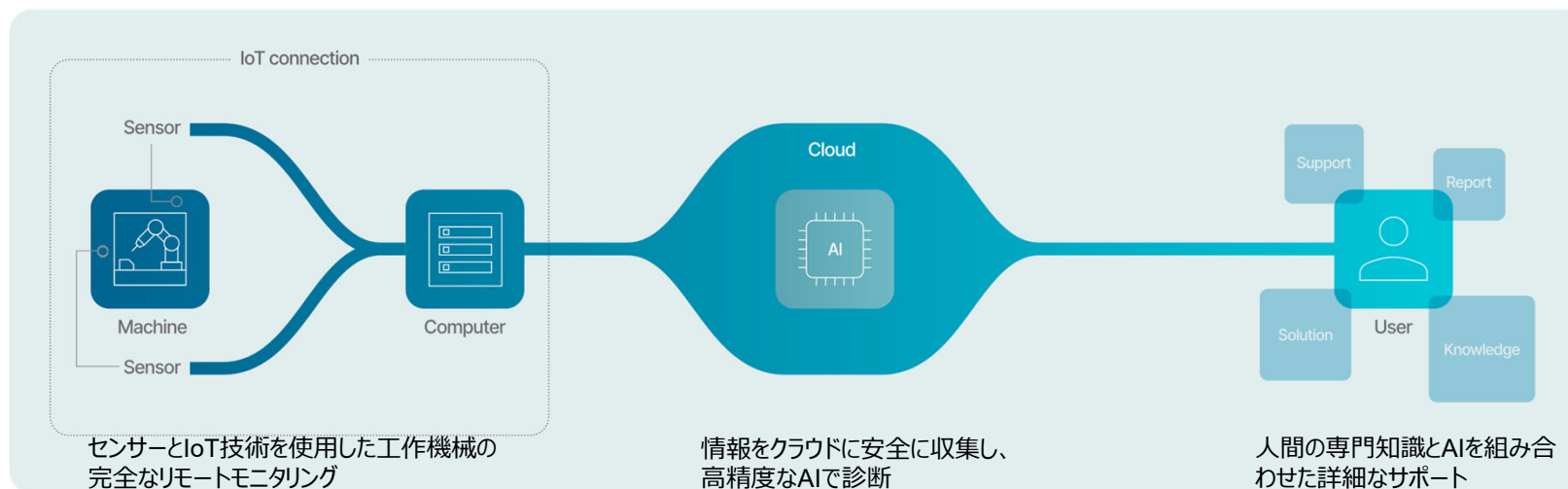
ギヤホッピング



AIを活用した予知保全 WALC CARE

DMG MORI

✓ WALC CARE KITを工作機械に取り付けることで、AIがセンサーデータを分析し、主軸・送り軸・回転軸の異常を予知診断



通常の
修理復旧



8日のマシンダウンを2日に短縮*

WALC
CARE



作業者が異常に気付く5ヵ月以上前*の予兆をAIが検出

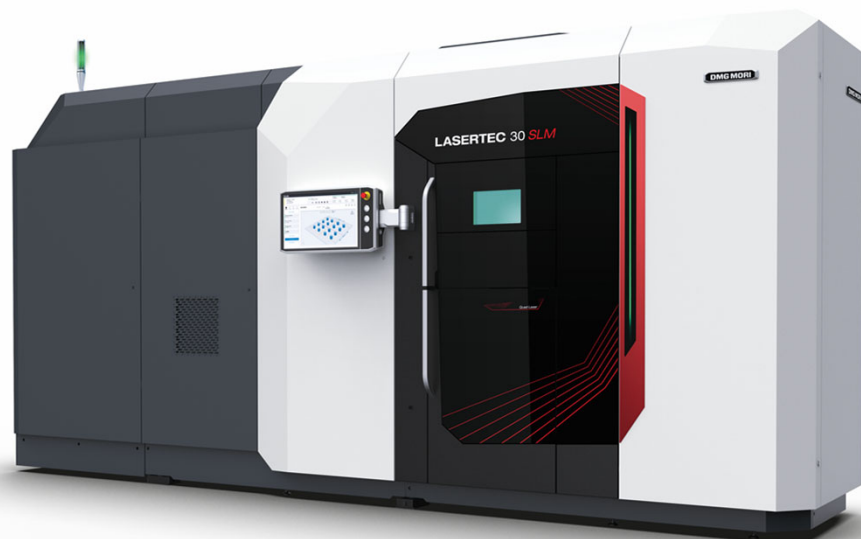
* 当社設備機の事例であり、全ての機械について同様の効果を保証するものではありません。

LASERTEC 30 SLM 3rd Generationによる内製部品のリードタイム短縮

DMG MORI

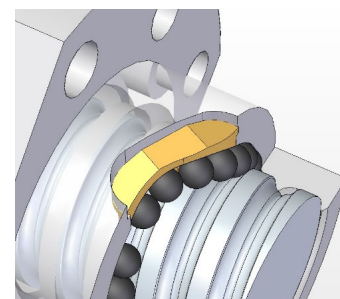
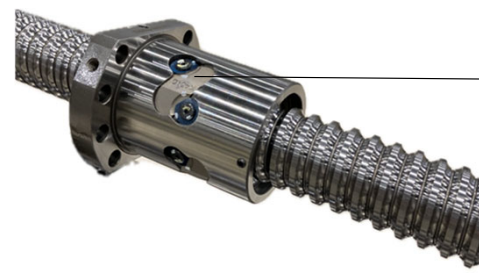
LASERTEC 30 SLM 3rd Generation

- ✓ 鋳物フレームを採用 (剛性アップ、熱変位対応)
- ✓ CELOS Xにより、オペレーターに効率的な操作手順をガイド
- ✓ レーザユニット4つにより、従来機よりも同時造形できる能力向上



ボールねじ デフレクタ内製量産産品をSLMで造形

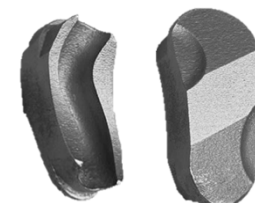
- ✓ 金型製作が不要となり、開発リードタイムを大幅に短縮
- ✓ 量産品製造にも対応できる造形スピード
- ✓ 自由な形状設計による機能最適化と軽量化



DEFLECTOR (こま)



金型による造形



LASERTEC 30 SLM 3rd Generationによる造形

インドでの生産拡大

DMG MORI

- ✓ 2024年7月～ 横形マシニングセンタNHX 6300 i のインド生産を開始 (Lakshmi Machine Works Ltd.への生産委託)
農機、建機、鉄道部品などの中～大型部品の加工、鋳物加工ニーズの取り込み
高トルクの内製主軸powerMASTER、ゼロスラッジクーラントタンクを標準搭載し、安定稼働する自動化ソリューションを提案



Lakshmi Machine Works Ltd.

生産開始	2019年10月
生産機種	立形MC: CMX 600 Vi、CMX 800 Vi、 CMX 1100 Vi NEW 横形MC: NHX 6300 i
生産台数(年間)	約60台→100台(2025年計画)

※鋳物工場の新設計画は、インドからポーランドに用地変更

1.2024年度上半期(1-6月)決算概要

2.事業環境

3.グローバル・マーケティング

4. MX (マシニング・トランスフォーメーション)の進展

5. ESG/CSRの取組み

DMG森精機CIRCULARの取り組み：再資源化による工作機械の鋳物安定調達

DMG MORI

- ✓ 廃却された機械の板金・鋳物や加工時の切りくずを、鋳物製造グループ会社で原料化
- ✓ 鋳物の原料の生産時に発生するCO₂を年間1,800トン削減予定（2025年計画値）

重量の25%を占める銑鉄の
生産時に多量のCO₂が発生

5,000t : 銑鉄

4,000t : 銑鉄

1,000t : 廃却機の板金・鋳物
及び加工時の切りくず

成分分析により品質を担保した上で再利用

DMG MORIキャストックにおける鋳物の溶解
約20,000t (2025年計画)

廃却機の引き取り



原料を再利用して鋳造
(DMG MORIキャストック)



新しい機械へ



第19回（2024年）切削加工ドリームコンテスト

DMG MORI

切削加工ドリームコンテスト

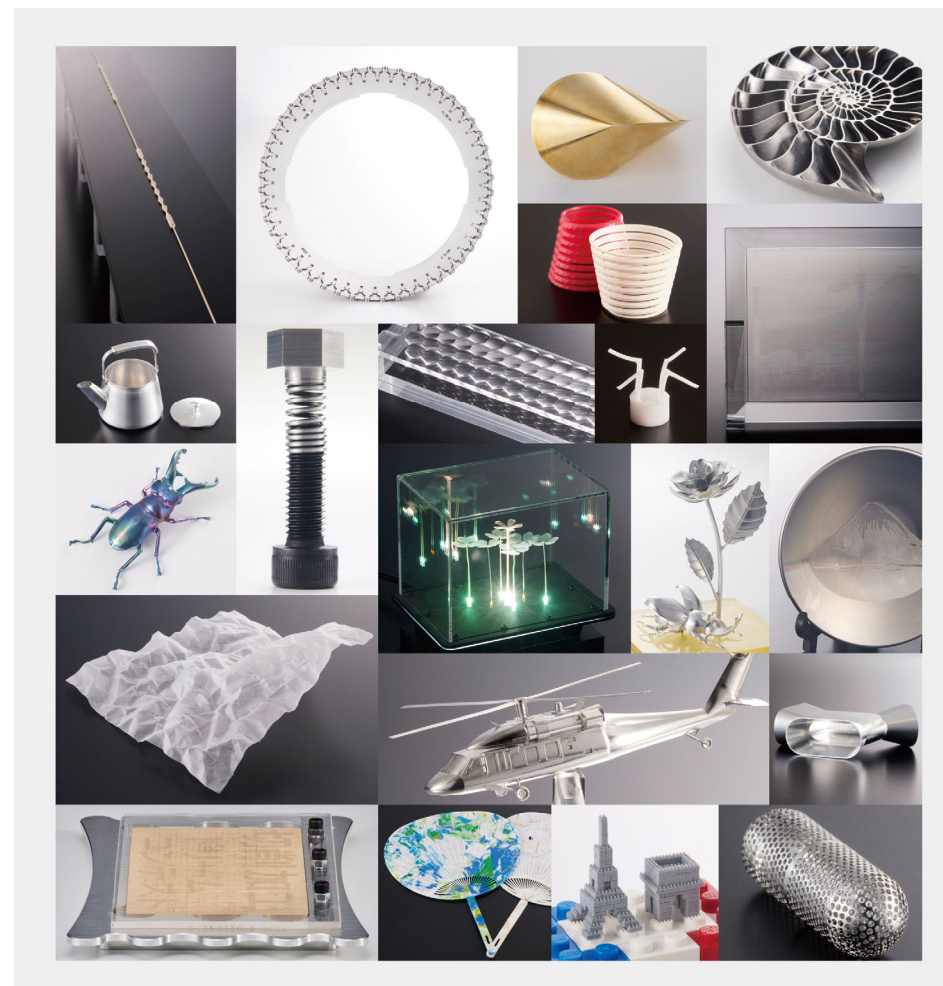
加工業界全体の技術・技能の交流と向上を目的に2004年より開催

応募期間

2024年5月20日(月)～7月31日(水)

結果発表・表彰式・受賞作品展示は後日確定

- ✓ 産業部品加工部門
- ✓ 試作・テスト加工部門
- ✓ 芸術造形加工部門
- ✓ 先端加工部門
- ✓ アカデミック部門



SBT「ネットゼロ目標」の認定を取得

DMG MORI

- ✓ スコープ3での2030年目標値を27.5%削減へと引き上げ
- ✓ 国際的な基準に沿って、バリューチェーン全体でのCO₂排出量削減を推進



◆新目標（基準：2019年総排出量）

	2030年	2050年 NEW
スコープ 1及び2	▲46.2%	▲90%
スコープ 3	▲27.5%*	

「ネットゼロ目標」... SBTイニシアチブが策定した温暖化ガス排出量削減基準
2050年の世界の平均気温上昇を+1.5℃以内に抑えることを目標とする。

*スコープ3の従来目標は▲13.5%

◆CO₂排出削減に向けた取組み例（スコープ1、2）

- ・ グローバルの工場で自家消費型太陽光発電導入



◆取組み例（スコープ3）

- ・ 鋳造グループ会社DMG MORIキャストテックへの電気炉導入済
- ・ 工程集約機による、製品使用時のエネルギー効率向上



当資料には、当社の目標、計画などの将来に関する記述が含まれております。

これらの将来に関する記述は、

当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいております。

今後の経営方針転換、外部要因の変化により、将来的に実際の業績と大きく異なる可能性があります。

なお、不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- 当グループが営業活動を行っている市場内における需要環境の変化
- 為替相場の変動
- 当グループが営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更
- タイムリーに新商品を開発し、市場に受け入れられるようにする当社の能力
- 当グループが営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ
- 独禁法や輸出管理規制等関連する法規制又はその所轄当局による運用の変更
- COVID－19に関する日本国及び諸外国の渡航又は自宅待機規制の動向